

## (5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)

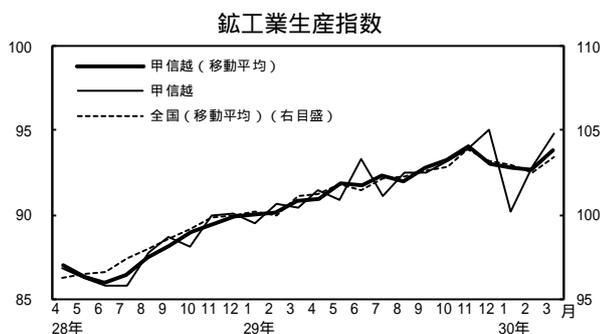
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成30年2月)	今回(平成30年5月)	
鉱工業生産	持ち直し	持ち直しているものの、一服感	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直し	
住宅建設	減少	増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。

1 - 3月期には、「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。「輸送機械」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子デバ、電気・情報通信	42.8	2.1	1.8	4.4	1.9	0.4
汎・生産・業務用機械	17.9	5.2	0.6	7.1	4.6	5.1
石油・石炭製品、化学、プラ製品	10.5	0.8	2.2	3.5	1.3	2.2
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.6	1.0	1.2	4.5	3.1	1.1
輸送機械	7.1	1.1	0.5	6.9	9.5	3.0
鉱工業	100.0	2.2	1.5	5.2	3.0	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。

2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3. 甲信越は内閣府にて算出。

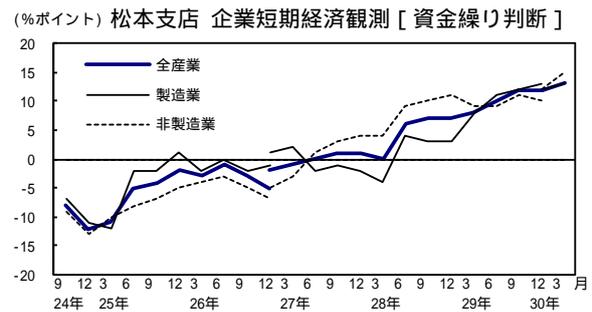
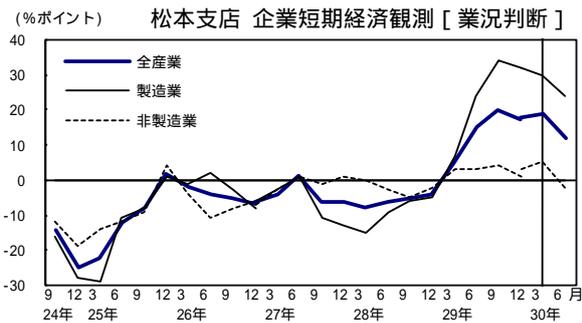
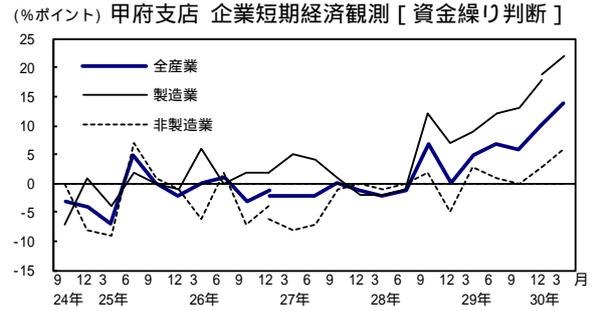
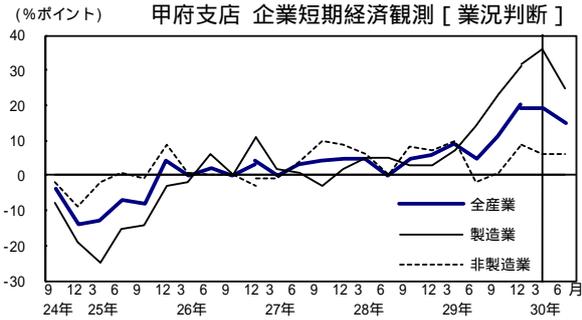
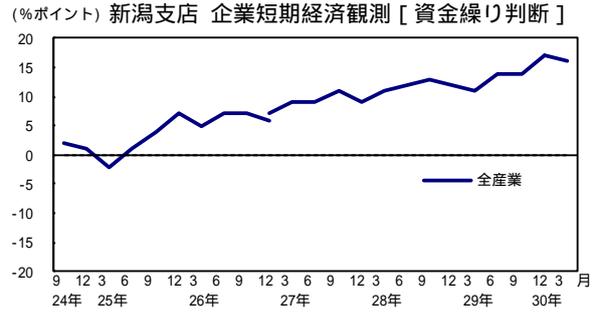
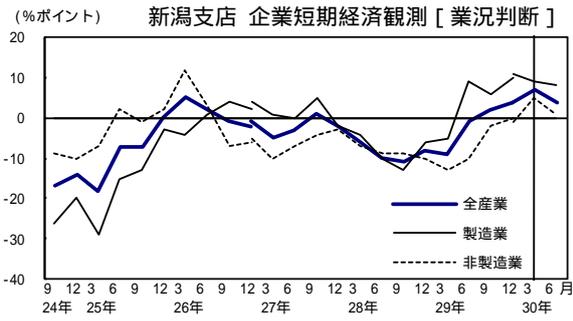
(2) 日銀短観における新潟支店管内の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

甲府支店管内の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

松本支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

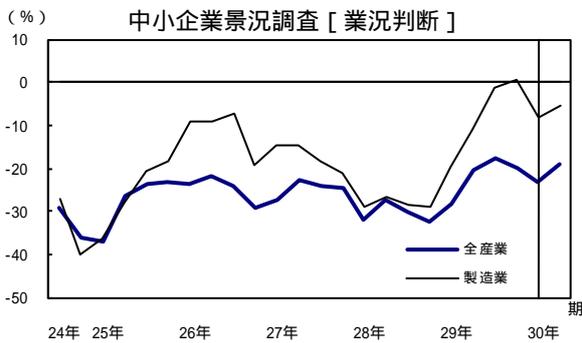
(5) 甲信越

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。  
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

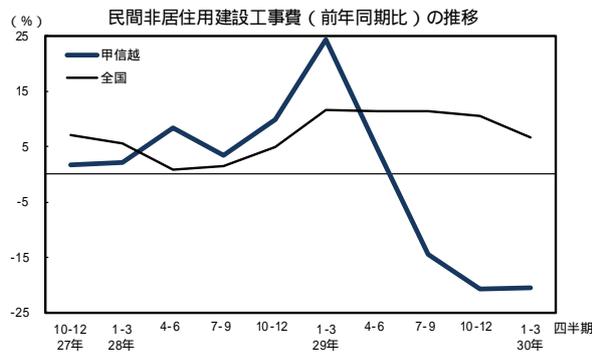
## 景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「今月は宝飾の卸、小売向けの展示会がそれぞれ開催されたが、どちらも来客数、売上共に10%の減少である。問屋、小売店共に、多少動きが出てきたというものの、依然として様子見状態で、仕入意欲はない(その他製造業[宝石・貴金属])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に減少している。

## 企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)



(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

	29年度実績見込み	30年度値
全産業		
新潟支店	0.5 ( 3.1)	3.9
甲府支店	17.9 ( 8.8)	6.5
松本支店	6.3 ( 1.4)	5.8
製造業		
新潟支店	0.2 ( 0.6)	12.1
甲府支店	49.5 ( 2.7)	8.1
松本支店	5.4 ( 2.5)	8.2
非製造業		
新潟支店	0.8 ( 5.3)	3.8
甲府支店	19.6 ( 19.8)	3.0
松本支店	10.4 ( 3.5)	4.8

(備考) ( )は前回(12月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数(RDEI(消費))

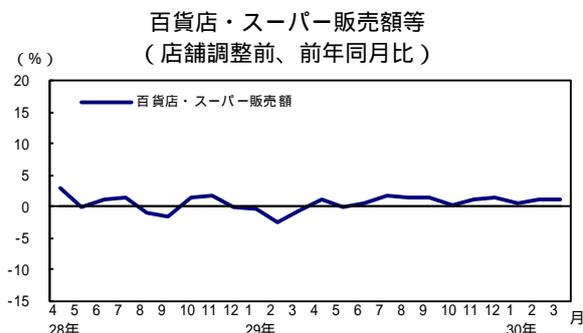
1月は前月比0.9%減、2月は同1.3%増、3月は同0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

1-3月期は、総じて飲食料品が好調だったため、いずれの月においても前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「桜の開花が1週間早く、花見商戦が空振りとなっている。しかし、月末、ゴールデンウィーク前半のイベントが活況を呈したので持ち直している(商店街)」など「変わらない」とする回答が増加した。



	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI(消費*1)	0.6	0.9	1.3	0.2
百貨店・スーパー(*2)	0.9	0.5	1.1	1.2
乗用車(*3)	3.4	2.0	3.5	4.1
(季節調整値)(*3)	2.8	1.3	0.8	2.2

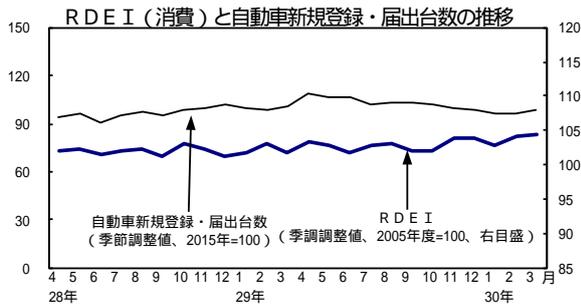
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

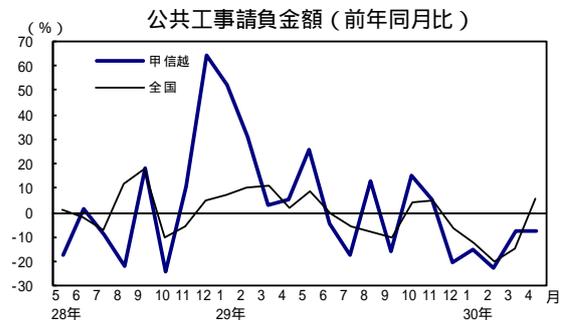
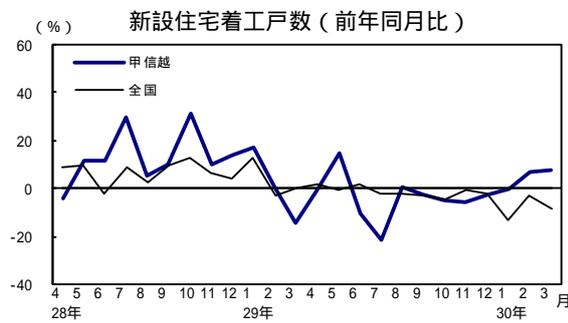
店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(5) 甲信越

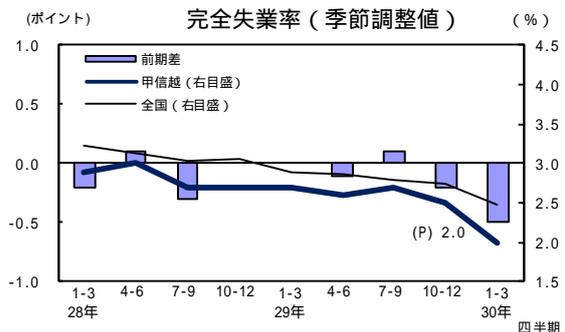
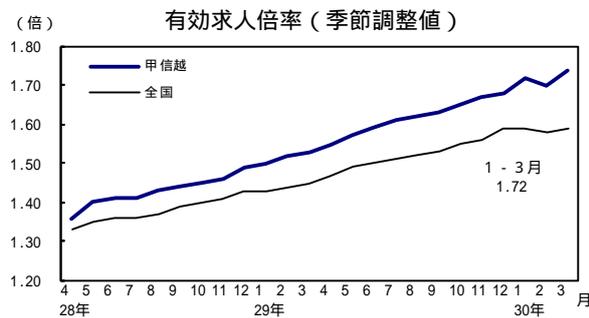


- (2) 住宅建設は前年に比べて増加している。  
分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。
- (3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。  
2. 1-3月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[雇用関連 (現状)]

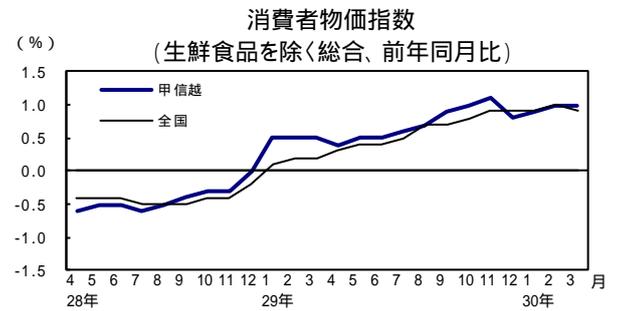
「人手不足は深刻化している。そうしたなか、求人誌などの共同広告に掲載しても、余り応募者のない企業は、独自の新聞折込チラシに切り替えて、人材確保に力を入れている (求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は大幅に増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数 (前年比)	70 32.1	56 14.3	56 3.7	73 43.1	13 50.0
負債総額 (前年比)	206 135.4	63 81.5	106 21.2	122 20.4	16 76.4



#### 景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

